

## 平成21年度小牧市休日急病診療所運営協議会

【日時】平成21年10月14日（金曜日）

午後2時～午後3時25分

【場所】保健センター 大会議室

【出席者】

《委員》船橋重喜、友松 武、菱田直基、平尾亮人、舟橋國博、酒井義仁  
福澤 広、末永裕之、村上秀斎、石黒行雄、西川昌登

《事務局》舟橋次長、江崎所長、山中補佐、佐橋係長、山中主査

【議事録】

あいさつ

舟橋次長

8月7日の協議会で平成20年度の運営状況の報告させていただきました。受診者が減少の中、市の持ち出し分が増えており、市民の理解が得られなくなる事が想定されます。これを受け、休診のPR状況、他市の状況を踏まえ市としての改善の骨子案を提示させていただき、三師会と調整させていただき、方向性や内容を協議していただきたいと思います。

また、新型インフルエンザも本格的に流行が始まり、市内の患者数も増加している。今後今以上に増えた場合の休日における新型インフルエンザの治療の場として休診がどのように対応していくのかの検討を現在医師会とも検討をしておりますが、その検討状況を示しながらご意見をいただきたいと思います。

会長

これまでこの協議会は年1回、収支報告で終わっていましたが、運営状況の厳しい折、改善策をとということで第2回目を行うものであります。その内容については医師会でも話し合いをしてきました。休診の実務はわれわれであります但運営の母体は市であります。市の意見も聞き、こちらの希望も述べながら最終結論は、今日は無理でも次に向けて飛躍的になるよう、よりよい前進を目指した議論を進めていきたいと思います。

## 2 議題

(1) 休日急病診療所の経営改善について

ア 市の対応について

(ア) 積極的な休診PRについて

(報告者) 事務局

(イ) 他市の休日急病診療所運営調査について

(報告者) 事務局

## 質疑応答

委員

PRポスターについて、医師会で問題となったのは内科の患者ばかりが増えるのではないか、パンクして対応が出来なくなるのではないかという声が内科のほうからあがっています。

事務局

この前も患者が100人をこえました。先生方の判断にお任せしたい。

委員

外科は大体10人くらいの患者数ですが、市民病院に行く人が多いと思いますが、市民病院は困っているのですか。困っているのであれば、来た患者に対して次回からは休診に行ってもらいたいとチラシを配って話をしてほしいと思います。

委員

市民病院に来院した患者を断る事はできません。救急の入口に貼紙はしてあります。広報でもPRしてもらっています。一次の患者は休診に行ってほしいと思っています。受診抑制もあり休診利用者もあって外来そのものが減っているができれば休診を利用して欲しいというスタンスであります。

委員

他市との比較で、江南市は時間等で比較しやすいが、安城市や稲沢市は夜9時とかまで行っています。

委員

歯科についてですが、休診という形態ではこれだけかもしれませんが豊川市は豊川市歯科医療センターで平日夜間診療を含めて年間365日行っています。稲沢市も一宮口腔衛生センターで9時から12時まで行っています。休診ということであるので問題はないわけですが、輪番制で行って

いるところもあり、休日診療は日曜日の午後行っているところもあります。全く休日行っていないところが多いわけではありません。資料自体が誤りというわけではないですが、実状をご承知いただきたい。

委員

安城市は直営なので経費が圧縮されているのですか。

委員

安城市は安城厚生病院がものすごい患者数なので、パンクしてしまう、大問題だということで、できるかぎり一次医療を医師会の方でおねがいしたいということが出ていたと思います。それを受けて夜間も延長したと思います。

会長

次のところでも関連していくので次に移りたいと思います。

議題

イ 経営改善策の骨子(案)について  
(報告者) 事務局

質疑応答

委員

まず、基本的なことから、休診に該当があるかは分かりませんが、40人規制というのがあります。40人の患者に対して1人の薬剤師をおかなければいけないということです。繁忙期の考え方、今回のような100人を越えるような時の段階的な運用はできないか。待機を認めてもらえるような費用も必要なのではないかと思います。

事務局

いただきました意見は、真摯に受け止めさせていただき、今後具体的な調整を三師会と行っていきたいと思います。

委員

前回の協議会の時に、休診がこちらに移転した当時の持ち出し位に下げたいといっていたと思いますが。

事務局

患者一人当たりの市の持ち出しを平成16年度くらいにもっていければよいがあまりにも大幅な改善が必要となります。患者数が横ばい、減少傾向となった平成17年から18年程度の一人当たり負担額4,200円から4,300円を少し下回る額に持っていけないかと考えています。委託料に換算すると750万円ほどの改善が図れないかという考えをもっています。

委員

(1)についてですが、基本的には市のものなので市の職員でやるのですか。掃除も業者に委託しているがそれも職員でやっていくということになるのですか。漏えいの検査はやらなければならない。行ったことに対する責任はどうするのですか、保健所に提出する書類の責任は行ったものでということになるのですか。

事務局

X線の漏えい検査が法定点検である事は承知しています。どこまでの機器をどこまでの範囲でやっていけるのか、調整、相談して進めていきたいと思います。

委員

保守点検は医者にはむいていません。ましてや、責任を取らせることはむりです。保守点検費用の交渉をして安くする方がいいと思います。患者の数はかわるわけで、今回のようにインフルエンザがはやれば収入のほうが多くなってくると思います。それを1件あたりいくらの単価を安くしなくてはいけないというのは困るわけです。現場としては難しいことで具体性のある話でないといけないと思う。

事務局

今後協議を進めていく中で、今回の見直し案は「これをお願いします。」ではなく見直し案に向けてやれるものから改善を図り、三師会と協議し、一步一步近づけていただきたいと考えています。

委員

単価の検討ですが、外科も休診には絶対必要だと思います。少ない患者を一人でみるが、患者が増えるように努力してほしい。

委員

単価の件ですが、外科と内科との比較をすると外科の単価が高いということで見直しができるのではないかと。前回保守点検はいらないものもあるのではないかとという意見があったので項目としてあげさせていただきましたが、機器ごとに考えて進めていくことになるという方向性だということでご理解をいただきたいと思います。

委員

保守点検については、週 1 回の診療と毎日使用しているところと同じような点検なのですか。1 週間の間で直せばいいなら点検料が安くできるとか、すぐに直らなければ市民病院にお願いするとかできませんか。要は、週 1 回使用に対する保守体制を取ればいいと思います。漏えいの機器の保守点検料もこんなにかからないのではないかと思います。漏えい検査だけなら 5 万円ぐらい。あとは機器全体の保守で節約できると思います。

会長

4 項目目については、重要であり議論を重ねていかなければなりません、本協議会は具体的な見直し内容を決定する機関ではなく、見直しの方向性を出していく場であることから、今後三師会と話し合いを重ねて見直し内容をつめていきたいと思います。

それでは、改善策の骨子（案）により、具体的な改善内容を市と三師会でつめていただくこととすることでご異議ありませんか。

各委員

異議なし

事務局

今後話し合いを重ねて、11 月末にもう一度協議会を開きたいと思いますのでよろしくお願いします。

議題

- (2) 新型インフルエンザに対する休日急病診療所の対応（案）について  
（報告者） 事務局

質疑応答

委員

愛知県では春日井が患者数が多い。小牧市は微増であります。9月に学校が始まるとまん延するので、それに対する対応をしないといけないという考えできました。子どもは夜熱を出しても朝下がっていることが多いので、48時間熱が下がっている状態でなければ学校に来ないようにという文書を教育委員会との連名でだしました。そういう手を打ったことは非常によかったと思います。

第2日赤では昨日今日で250人の患者数です。こういう状態では救急外来がなりたたなくなります。診療所で軽症患者をみてほしいということです。基本はインフルエンザの患者は診療所でみてほしい。

委員

どの時点でどの体制をとるか、緊急の判断をいつするのか、指揮系統をどこにおくのか、病院長、松本先生との話の中で緊急の体制という要請をしてもらおうと医師会も診療時間の延長などの体制をとります。

委員

小牧市は早くから問題に取り組んでいると思います。病院で指令をだしてほしいということなので、会長と市と市民病院と相談をし、連携をとりながらいきたいと思います。

委員

薬剤師会にも連絡がほしい。薬の供給面などもあるのでお願いします。

会長

他にご意見ありますか。

意見もないようなので、これで休日急病診療所運営協議会を終了します。